

日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～」

【申請者】 福井県、小浜市、若狭町

【概要】

- ・ 古代、若狭は海産物や塩など豊富な食材を都に送り朝廷の食を支えた御食国であった。
- ・ 中世以降も「若狭の美物（うましもの）」を都に運び、京の食文化を支えてきた。
- ・ 若狭と都をつなぐ「鯖街道」は、食材をはじめとする様々な物資や人、文化を運ぶ交流の道であった。
- ・ 「鯖街道」を介した往来を通じて、若狭には社寺・町並み・民俗文化財など多彩で密度の高い往来文化遺産群が形成された。
- ・ 「鯖街道」をたどれば1500年の往来の歴史と伝統を守り伝える人々の営みを体験できる。

【構成と文化遺産】

○若狭街道 —御食国若狭の原点と鯖街道のメインルート—

「鯖街道」のメインルート若狭街道を囲む御食国ゆかりの古墳群や宿場町熊川の町並み

（文化遺産）上中古墳群、重伝建地区熊川宿 など

○鯖街道の起点 —湊町・小浜の賑わい—

「海の道」と「陸の道」が結節点として様々な物資、人、文化が集まった「湊町・小浜」

（文化遺産）重伝建地区小浜西組、小浜の祇園祭礼、和久里壬生狂言、若狭塗など

○針畑越え —最古の鯖街道の歴史的景観—

若狭彦の伝説が残る最古の「鯖街道」沿いに残る古道景観と古刹・仏像群

（文化遺産）上根来、遠敷の町並み、お水送り、古代中世の社寺・仏像群 など

○若狭の浦々に続く鯖街道 —都の祭りや伝統を守り伝える集落—

街道沿いの集落に伝わる中世社寺芸能など四季折々の民俗行事と伝統的な食文化

（文化遺産）若狭の王の舞群、六斎念仏群、地藏盆、へしこ、なれずし など